

# 幼児&小学1・2年生のための ティーボール指導教本Ⅰ

## Teeball Coaching Handbook



共同画「みんなでティーボール」(東村山市・久米川幼稚園)

編 著

公益財団法人日本野球連盟  
公益財団法人日本高等学校野球連盟  
NPO法人日本ティーボール協会

体育教育出版会

# 幼児&小学1・2年生のための ティーボール指導教本 I

## 目 次

|                                          |     |
|------------------------------------------|-----|
| ごあいさつ .....                              | 001 |
| 日本式ティーボールの誕生と幼児&小学1・2年生への普及（吉村 正） .....  | 002 |
| 幼児&小学1・2年生のためのティーボール入門・写真&解説（丸山 克俊・吉村 正） |     |
| * しっかり挨拶しよう ボールを使って遊ぼう .....             | 004 |
| * ボールを自由に投げてみよう .....                    | 005 |
| * ボールを投げて 自分で走って拾いに行こう .....             | 006 |
| * 壁などに当てて ころがってくるボールを捕ろう .....           | 007 |
| * 思いっきり前に投げよう 上に投げよう .....               | 008 |
| * 的に向かって投げよう .....                       | 009 |
| * バットを正しく握ろう 水平に打とう（面で打とう①） .....        | 010 |
| * 床に座ってボールを打ってみよう（面で打とう②） .....          | 011 |
| * 平均台にボールを置いて水平打ちしよう（面で打とう③） .....       | 012 |
| * 跳び箱にボールを置いて水平打ちしよう（面で打とう④） .....       | 013 |
| * 幼児用ティーボールコーンに載せたボールを打とう .....          | 014 |
| * バットを振る基本を学ぼう 順番を守ろう .....              | 015 |
| * どんどんボールを打ってみよう .....                   | 016 |
| * マンツーマンでバッティング指導をしよう .....              | 017 |
| * ボールを捕る基本を指導しよう .....                   | 018 |
| * 投げて捕ってグループでボールと遊ぼう .....               | 019 |
| * ダイヤモンドを走ろう 競走もしよう .....                | 020 |
| * 幼児&小学1・2年生用どか点ティーボール① .....            | 021 |
| * 幼児&小学1・2年生用どか点ティーボール② .....            | 022 |
| 小学校低学年のティーボールの授業づくりのポイント（吉永 武史） .....    | 023 |
| 参考資料 文部科学省「幼稚園教育要領」等抜粋 .....             | 025 |
| 参考資料 文部科学省「小学校学習指導要領解説 体育編」抜粋 .....      | 026 |
| 幼児&小学1・2年生のティーボール指導について考える（丸山 克俊） .....  | 029 |
| 執筆者・協力者等一覧（裏表紙の裏）                        |     |

## ごあいさつ

2015年7月、公益財団法人日本野球連盟（会長：市野紀生）は、伝統ある第86回都市対抗野球決勝戦の日の午前中、歴史に残る一大企画をスタートさせました。それは、「第1回ティーボール教室in東京ドーム」です。当日は、2,300名の親子の皆様にご参集いただき、ベースボール型スポーツのスターターゲーム＝ティーボールを大いに楽しんでいただけたと思っております。

ベースボール型スポーツの底辺拡大が叫ばれ続けている中で、第86回をも数える都市対抗野球の決勝戦の日に『親子ティーボールイベント』を約3時間（9時から親子で自由にキャッチボール、10時から12時まで親子ふれあい活動&ティーボール教室）にわたって挙行するということは大英断でありました。併せて、同年11月の第41回社会人野球日本選手権大会においても、京セラドーム大阪において開催いたしました。

そして、この一大企画をほとぼしるような熱意と誠意をもって応援し、協力したのがNPO法人日本ティーボール協会（理事長：吉村正）でありました。日本野球連盟・野端啓夫専務理事と吉村正理事長を中心にして、再三再四入念な打ち合わせを行いました。ご両親が一緒であっても幼児を対象とするベースボール型ゲームは、より高い安全性への配慮が不可欠だからです。また、東京ドーム・親子ティーボールがいつまでも想い出に残る楽しい時間となるように、指導内容・方法を吟味、検討することも、今後この企画を大きく発展させるためにも大切であったからです。

この一大企画は、今年は第3回目を迎えました。主催が日本野球連盟、共催が日本ティーボール協会。そして、後援団体として公益財団法人日本オリンピック委員会・文京区・一般財団法人全日本野球協会・毎日新聞社。そして、運営に際しては、ナガセケンコー株式会社・株式会社ジャクパ・一般社団法人日本女子プロ野球機構の皆様にご尽力をいただきました。

また、公益財団法人日本高等学校野球連盟（会長：八田英二）の役員諸氏、事務局職員諸氏には、再三にわたってこの画期的な企画を視察いただきました。長い間隆盛を極めてきたわが国のベースボール型スポーツの競技人口激減に歯止めをかけるために、『高校野球200年構想』の協議会を設置し、幼児&小学1・2年生のティーボールの普及に対しても、その推進プロジェクトをスタートさせることが決定しています。今、ベースボール型スポーツの関係団体が、底辺拡大のために安全で楽しいティーボールの普及に一致団結することが焦眉の急でありましょう。本書がその一つの契機になることを心から願っております。

2017年12月吉日

公益財団法人日本野球連盟 会長 市野 紀生  
公益財団法人日本高等学校野球連盟 会長 八田 英二  
NPO法人日本ティーボール協会 理事長 吉村 正

# 日本式ティーボールの誕生と幼児&小学1・2年生への普及

吉村 正（NPO 法人日本ティーボール協会理事長）

## 日本式ティーボールの誕生と学校体育授業への導入

人は棒があれば石や土を叩き、バットがあればボールを打ちたくなります。世界には、用具(ボール等)を用具(バット等)で叩いたり、打ったりする球技は沢山あります。それは、野球、ソフトボール、クリケット、ラウンダース、ゴルフ、ポロ、ホッケー、アイスホッケー等です。また、片手でボールを打つハンドベースボールや、ラケットでボールやシャトルを打つテニス、卓球、バドミントン等があります。

このようなすべての“ボール等を打つ球技”のスタートとなるゲームがティーボールといっても過言ではないでしょう。特に、ティーボールは、野球、ソフトボール、クリケット等の「スターターゲーム」として世界で認められています。

1988年に、IBA（国際野球連盟）とISF（国際ソフトボール連盟）が協力して、野球とソフトボールの入門期の子どもたち（4歳から8歳まで）のために「Teeball」を考案しました。その「Teeball」は、金属製バットを使用し、大人が使用する硬式ボールをほんの少し柔らかくしたボールを用い、ヘルメット・マスクを着用してプレーするという危険度の高い球技でした。

一方、わが国では、1981年に発足した「大学スローピッチソフトボール研究会（会長：吉村正）」が中心となって、「いつでも、どこでも、だれでも、楽しくプレーできる野球・ソフトボール」の研究と実践を開始しました。この研究会は、「国民皆ベース・ボール」を目標にして、「日本式ティーボール」を1993年に完成させ、「日本ティーボール協会（会長：海部俊樹）」をスタートさせたのです。

この「日本式ティーボール」は、バットやボールを柔らかくし、塁間を狭く、安全に、大勢の老若男女がプレーできる球技としました。この「日本式ティーボール」は、特に小学生の間で高い評価を得て、1998年の小学校学習指導要領改訂では、3・4年生に対して「ゲームの例：手やラケット、バットなどで打ったり、止まっているボールを打ったりするゲーム」と記述され、小学校体育の副教材として「ティーボール」が掲載されるようになりました。こうして、全国の小学校に普及していったのです。

そして、その10年後の2008年、小学校学習指導要領解説（体育編）3・4年生に加え、5・6年生においても、ベースボール型の中で「例示：ティーボール」と明記され、普及は加速化されてきました。

2017年6月、文部科学省から、小学3・4・5・6年生に対して、このティーボールがベースボール型の中で中心教材となることが明らかにされたのです（27・28ページ参照）。これが今後、約10年間続くことになります。ますます普及するでしょう。

## 幼児&小学1・2年生のためのティーボールの普及のために

以上のように、この「日本式ティーボール」は、全国の小学3・4・5・6年生に対して広く普及しています。そして、韓国・中国・台湾においては、この「日本式ティーボール」が10数年前に“輸出”されて、特に小学生の間では一大ブームになっています。プロ野球はあっても、わが国のようにリトルリーグ、スポーツ少年団ソフトボールから中学校・高等学校でも盛んにプレーされていなかった国や地域では、ベースボール型スターターゲームであるこのティーボールは、子どもたちと両親にとってとても魅力的なスポーツになっています。そして、中国では、このティーボールを全国の幼稚園に導入しようというプログラムもスタートしています。「全国幼児体育（ボールゲーム）専門家委員会」が昨年スタートし、ティーボール・サッカー・バスケットボールがその対象種目となっています。

このように小学校において普及が加速度的に進んでいることを踏まえ、日本ティーボール協会では、2004年から、「幼稚園や小学校低学年（1・2年生）への普及」についても一大目標としてきました。毎年1月に開催している全国研修大会でもある「第11回日本ティーボールセミナー（当時は文部科学省後援、現在は厚生労働省も後援）」（於：早稲田大学国際会議場）では、大々的に取り上げました。それから10数年、全国各地の小学校や幼稚園・保育所等とも連携して実践的な研究を続けてきました。そして、2013年9月には、現行の小学3・4・5・6年生用バットやボールよりも柔らかい「幼児、小学1・2年生用ティーボール＝インドアティーボール」用具を完成させました。そして、ティー台の代わりとして柔らかく危険度の低いカラーコーンを考案しました。これらの用具によって、幼児・小学1・2年生への普及に加え、室内でのティーボール、高齢者への普及を加速させることができると思っています。

そしてこの度、上記の研究と実践の大きな成果を、「公益財団法人日本野球連盟」と「公益財団法人日本高等学校野球連盟」にお認めいただき、3団体の編著として「幼児&小学1・2年生のためのティーボール教本Ⅰ」を刊行する運びとなりました。望外の喜びであります。本書は、2009年に全国22,476のすべての小学校に日本ティーボール協会から配布した『笑顔いっぱいティーボール』の兄弟姉妹版でもあります。

本書は、幼児&小学1・2年生の指導に関わるすべての人たちの「ベースボール型スポーツのスターターゲーム＝ティーボール」指導の入門書として編集いたしました。高校生や大学生が、写真を見ながらわかりやすく指導できるように、その要点を解説しています。

今後も実践的な研究活動を続けて、そのⅡ、そのⅢと刊行することによって、ベースボール型スポーツ普及のための社会貢献ができればと考えております。

結びに、幼児ティーボール指導と本書の編集に際しては、本協会副理事長・丸山克俊先生の格別なご尽力をいただきました。記して、深く感謝申し上げます。

（早稲田大学名誉教授・中国煙台大学客員教授）

# 小学校低学年のティーボールの授業づくりのポイント

吉 永 武 史（早稲田大学准教授）

## ◆小学校低学年のティーボールの授業づくりのポイント

小学校低学年（１年生・２年生）のゲームでは、児童がゲームの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、攻めと守りに関する課題を解決するために、簡単なボール操作や攻めと守りの動きによって易しいゲームができるようになることが目標として位置づけられている。2017年３月に改訂された小学校学習指導要領の解説（体育編）には、「攻めと守りを交代しながら、ボールを手などで打ったり蹴ったりする簡単な規則で行われる易しいゲーム（ベースボール型ゲームに発展）」がボールゲームの１つとして示されている。そのため、低学年のゲームの授業でティーボールを取り扱う場合には、児童がゲームの楽しさに触れることができるよう、簡単なボール操作と規則で行えるような教材の工夫が授業づくりの重要なポイントとなる。また、運動が苦手な児童や意欲的でない児童に対応するために、柔らかいボールを用いたり、止まっているボールを打ったりするなどの配慮も求められる。例えば、ボールについては、幼児用の柔らかいIndoor Teeball（写真１）を使用することで児童の恐怖心を大幅に軽減することが可能となる。また、ティー台についても、通常のティーボールで使用されるもの（高さ55cm）ではなく、幼児用のティー台（高さ45cm）を用いることで、身長の高い低学年の児童でも確実にボールを打つことができる。



写真１． 幼児用のIndoor Teeball



写真２． 幼児用のティーボールコーン

小学校の体育授業では、「技能」（※新学習指導要領では「知識及び技能」と示されている）に関する内容のみならず、「思考力、判断力、表現力等」（簡単な規則を工夫したり、攻め方を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えること）や「学びに向かう力、人間性等」（運動遊びに進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場や用具の安全に気をつけたりすること）についても、児童が学習すべき内容として位置づけなければならない。例えば、「思考力、判断力、表現力等」に関しては、

- ・ 楽しくゲームができる場や得点の方法など、自己に適した場や規則を選ぶこと。
- ・ ボールを捕るときなどに行った工夫を、動作や言葉で友達に伝えること。

などが例示としてあげられている。また、「学びに向かう力、人間性等」に関しては、

- ・ 順番や規則を守り、誰とでも仲よくすること。
- ・ 用具等の準備や片づけを、友達と一緒にすること。
- ・ 危険物が無いか、安全にゲームができるかなどの場の安全に気をつけること。

などが例示としてあげられている。

これらの内容についても、小学校低学年のティーボールの授業では学習内容として位置づけ、すべての児童がゲームを楽しく行うことができるよう指導することが大切である。

本時の学習（3／6時間）

- ・バットの振り方を知り、バットでボールを打つことができるようにする。(知識及び技能)
- ・友達のよい動きを見つけたり、友達に伝えたりすることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- ・規則を守り、友達と仲よく運動することができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

| 時間         | 学習活動                                                                                               | 指導上の留意点・評価(☆)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入<br>5分   | 1 学習の流れ、めあての確認<br>2 準備運動<br>3 用具や場の準備                                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>前時の学習を振り返り、本時の学習の流れやめあてを確認する。</li> <li>運動に必要な部位をしっかりとはぐすように言葉かけを行う。</li> <li>安全に留意しながら、友達と協力して準備を行うように声をかける。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 展開<br>30分  | <p>4 ゲームにつながる運動<br/>「ベースランニング競走」</p> <p>「ボールを遠くまで飛ばそう！」(フリーバッティング)</p> <p>5 ゲーム<br/>「どか点三角ベース」</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>塁ベースを回るときは、しっかりとベースを踏ませるようにする。</li> <li>バットの代わりにのボールを次の走者にしっかりと渡すように声をかける。</li> <li>打者はバットを思い切り振り、ボールをできるだけ遠くへ飛ばすようにする。</li> <li>打者と次打者の間は十分な距離（4～5m）をとり、打者が振ったバットが次打者に当たらないように留意する。</li> <li>守備者は打者が打ったボールを捕り行き、捕ったボールをかごに入れるようにする（その際、他の守備者とぶつからないように留意させる）。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">       ☆バットの持ち方や立ち方を理解し、バットでボールを打つことができる。(運動についての知識及び運動の技能)【観察】     </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>打者は力強くバットを振って、フェアグラウンド内にボールを打たせるようにする。</li> <li>守備者は打たれたボールの方向に素早く移動するようにする。</li> <li>打者はボールを打った後に、バットを投げないように（コーンにバットを入れるように）声をかける。</li> </ul> <p>&lt;規則の工夫例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単元のはじめは塁間の距離をせまく（7mぐらいに）設定し、児童が打つボールが飛ぶようになったら、その距離をのばしていく。</li> <li>初めてティーボールを学習する（特に1年生）場合には三角ベースで採用し、ある程度ボールを打つ技能が高まってきた場合には四角ベースで行う。</li> </ul> |
| まとめ<br>10分 | 6 用具の片づけ<br>7 整理運動<br>8 学習カードの記入<br>9 学習の振り返り                                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>安全に留意しながら、友達と協力して片づけを行うように声をかける。</li> <li>使った部位をはぐすように言葉かけを行う。</li> <li>本時の学習を振り返りながら、自分ができるようになったことを記入させる。</li> <li>バットの振り方や友達のよい動きについて気づいたことを発表させ、クラス全体で共有する。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |

# 幼児&小学1・2年生のティール指導について考える

丸山 克俊（日本幼少児健康教育学会会長）

## はじめに

2012年3月、文部科学省は、「幼児期運動指針」を発表し、「幼児期運動指針ガイドブック」並びに「幼児期運動指針普及用パンフレット」を全国のすべての幼稚園・保育所等に配布しました。

この背景には、子どもたちの体力低下の問題があります。小学校へ入学した子どもたちが、かつては幼児期にはできていた運動内容ができないなど、文部科学省「学習指導要領」にある運動課題を達成することが困難であるという現状があるからです。

そこで、この指針は、家庭や幼稚園・保育所等でいわば「運動生活習慣の基礎づくり」に貢献することを願って策定されました。

2014年4月、日本発育発達学会は、この「幼児期運動指針」に基づいた「幼児期運動指針 実践ガイド」（杏林書院）を刊行しました。そこでは、幼児期の運動（指導）の在り方について、次のようにまとめられています。

## 1. 「幼児運動指針」に見る幼児&小学1・2年生の運動（遊び）目標

[指針の目標]

毎日、合計60分以上、楽しくからだを動かす。

\* 1日1時間程度は“運動遊び”しましょうと、具体的な運動量が提示されました。そして、この目標を推進するために、次の3点が大切であることが解説されています。

[指針の要点1]

幼児期に多様な動きづくりができるように、様々な遊びを取り入れること。

[指針の要点2]

子どもたちが楽しくからだを動かす時間を意図的に確保すること。

[指針の要点3]

子どもたちに、発達特性に応じた遊びを提供すること。

## 2. 子どもたちの発達特性を正しく理解しよう

今日のスポーツ科学の成果では、様々なことが研究され、理解されるようになっていきます。その中の一つに、幼児期から小学校低学年の時期には、特に、「動作の習得力（特にバランスや巧みさ）を高めよう」が合言葉になっています。これは、「様々な動作（からだの動き）を身につけることによって身のこなしをよくしよう」ということです。

その理由は、この時期には、骨や筋肉の発育はまだまだ大人水準にはほど遠いからです。換言すれば、持久能力や筋力を鍛えようと思っても運動生理学的限界があるからです。無理をして（させて）行くと、取り返しのつかないスポーツ障害を起こしてしまうこともあります。

一方、この時期は、脳、神経系の発育は大人水準の90%に達しているとも言われています。し

たがって、脳からの指令によって自分のからだをスムーズに動かす反復練習が有効になります。すなわち、幼児や小学1・2年生には、様々なスポーツ活動（遊び活動）に親しみながら、「正しい技術」を「正しい反復練習」によって身につけることが大切になります。そして、いわば単調になりやすい反復練習を“遊びの要素”を取り入れながら楽しく行うことが、その指導の原点になります。

### 3. 様々な“動き”を獲得する

幼児期には、様々な“動き”が発達していきます。その獲得のプロセスでは、様々な“動き”の内容を多様化させる「動きの多様化」と、その“動き”を上手に行う「動きの洗練化」の2つの方向性があると言われています。

「動きの多様化」とは、「基本的な動き（動作）」の分類という視点から考えると、①立つ、起きる、しゃがむ、回る、転がる、渡る、ぶらさがるなどの平衡系動作（バランスをとる動き）、②歩く、走る、跳ぶ、はねる、登る、よける、すべるなどの移動系動作（からだを移動する動き）、③打つ、投げる、捕る、持つ、運ぶ、転がす、蹴るなどの操作系動作（用具などを操作する動き）に分けて考えることができます。入門期のスポーツ活動では、これらの“動き”が複合的に行われていることを理解しておきたいものです。

次に、「動きの洗練化」とは、特に、幼児期においては、最初のうちはぎこちなく滑らかでなかった“動き”が「うまくなっていく」ことを意味しています。

ここでもう一つ考えておきたいことは、幼児期、小学校低学年期の子どもたちは月齢に12ヶ月の開きがあることです。そして、発達の個人差も激しいがゆえにその「多様性のある動きの獲得」のプロセスにも「上手くなっていく」プロセスにも、当然のごとく個人差があるということです。しかし、「今日は上手くできなくても、明日は、1週間後は、1ヶ月後、1年後は上手くなる」という素晴らしい潜在的な可能性を持っていることを、特に、その指導に当たる人たちは決して忘れてはならないと思います。

### 4. 日本式ティーボールを幼児&小学1・2年生に普及させるために

#### ー私の幼児体育指導経験からー

私自身、47年間、幼児体育（運動遊び）指導に関わってきました。そこでは、幼児期に特有なフィクション表象（うそっこ遊び）の世界を指導内容の中核に据えて（例えば、私がオオカミに扮しての子どもたちとオオカミとの戦いなど）、幼児体育指導を楽しんできました。「心を動かしてからだを動かす」ダイナミックな運動遊びを追求してきたからです。

そして、長い間、幼稚園・保育所等の正課活動や課外幼児教室に定着している『サッカー教室』を観ながら、幼児期の『ベースボール型指導』は「ちょっと難しい」と決めつけてきました。サッカーはボール1個で全員が楽しめるのに対して、バットや（小さな）ボールを扱うベースボール型は、とにかくベースボール型スポーツの特性とその指導法の要点を理解し、かつ、子どもたちの心のステージに立って言葉かけをして運動遊び指導ができる人材がいなければ、その指導は難しいと考えてきました。安全性へのリスクがとて大きく、ハイレベルの安全管理能力が要求さ

れるからです。また、入門期の技術指導は決して容易ではないからです。

今日、わが国には、幼稚園・保育所等で課外体育指導をビジネスとする多数の企業や団体が存在しています。そこで開設されているスポーツ教室等は、体育教室・体操教室・サッカー教室・水泳教室・剣道教室・バレエ教室・新体操教室等々はあっても、ベースボール型スポーツ教室はほとんど見ることはできませんでした。前述したように、安全管理、基本技術指導という大きな課題が二つもあるからです。

そして、日本サッカー協会『Jリーグ』の発展には目覚ましいものがあります。日本サッカー協会が主導して「キッズプログラム」の指導体制を充実させています。2016年にはバスケットボールの本格的なプロリーグも誕生しています。かつては幼少期のスポーツで一番人気であったベースボールは、少子化社会の影響もありますが、その少年競技人口は激減していると言わなければなりません。併せて、将来スーパーヒーローになる可能性を秘めた潜在的な運動能力の高い子どもたちが他種目の愛好者になり、ベースボール型スポーツから離れてしまっていることも杞憂されることです。さらに加速化される可能性もあります。今、幼稚園・保育所等で「ティーボール教室」の開設が求められています。総合型地域スポーツクラブの中にも、「親子ティーボール教室」を導入したいものです。

本幼児用「ティーボール指導教本Ⅰ」は、このような社会的状況下で、様々な野球・ソフトボール関係団体が「ベースボール型スポーツの幼児&小学1・2年生への普及活動」という「大道」のために、虚心坦懐、一致団結することを願って刊行されました。現場での更なる実践指導を通しての知見を蓄積して、「指導教本Ⅱ・Ⅲ……」と刊行することができればと考えております。安全管理と基本技術指導の実践研究体制も構築し、基礎研究を活性化しなければならないからです。

## 5. ティーボールは「動きの多様化」「動きの洗練化」の学習に最適

日本ティーボール協会、故・荒川博副会長は、毎年1月に開催されてきた関係者のための研修会「日本ティーボールセミナー」において再三基調講演を担当されました。かつて世界のホームラン王・読売ジャイアンツの王貞治選手の一本足打法を創造された名伯楽（コーチ）は、2006年の基調講演で、「子どもの才能は無限だー小学生にバッティングを指導してー」と題して、心に残るメッセージを残してくださいました。

（「ティーボール・ティーチャー指導教本」（体育教育出版会、2017年、所収）

この講演では、子どもに教える喜びと楽しさ、子どもの無限の可能性、習うより慣れろープロが子どもに教えなければー、怒らないで伸び伸びとやらせる、子どもたちの才能を育てる基本はティーボール、という小見出しで、縦横無尽に幼児期&小学生の愛情ある指導の大切さを説かれています。また、野球人気が衰退することを憂えて、未来のスーパーヒーロー・イチロー選手を輩出するためにも、幼少期から“プロの（本物の）指導者”が子どもたちを指導することの重要性についても強調されています。

学校体育授業で必修科目に採用された野球・ソフトボールの『スターターゲーム』であるティーボールは、「いつでも、どこでも、だれでも」できる発育発達期に最適なスポーツであると言え

ましょう。それゆえに、学校教育の場においても、安全管理を徹底した上で入門期の基本技術指導が上手にできる“先生”がたくさん誕生してほしいと思います。その指導体制のシステムづくりも焦眉の急であると言えます。繰り返しになりますが、幼稚園・保育所等においても、「ティーボール教室」を定期的に開設して、幼児ティーボール指導の実践研究を盛んにしなければなりません。加えて、家庭での「親子ティーボール遊び」も活性化したいものです。ベースボール型スポーツに不可欠な能力であるより高い水準の『動体視力』を鍛えるためには、幼少期の経験は財産になるものと思います。

特に、ベースボール型スポーツは、平衡系・移動系の動作に加えて操作系動作の入門指導に最適であると思います。投げる、捕る、打つ、走る動作の一つひとつを取り上げて、そこには様々な投げ方があり、捕り方があり、打ち方があり、走り方があることがわかります。それゆえに、子どもたちは、その技術習得と洗練化のプロセスに夢中になるのかもしれませんが。その理由は簡単です。プロ野球の選手の打率、守備率などを見れば容易にわかります。特にバッティングで3割を超えるプロ選手が何名いるかに思いを馳せれば理解できます。7割は失敗です。また、守備率は9割を超えていても、その一つのミスによって勝敗が決まってしまうことがあるのがベースボール型スポーツの特色です。パーフェクトを求めているパーフェクトはほとんどあり得ないのです。ゆえに、夢中になって練習し、甲子園（高校野球）を目指し、東京ドーム・京セラドーム（社会人野球）を目指し、そして、プロ野球やメジャーリーグを目指す子どもたちは、この国にはまだまだたくさんいるのです。野球・ソフトボール関係者は、一丸となってそのたくさんの子どもたちを素直に応援し、その健全育成に尽力、努力しなければならないのだと思います。

今、幼児&小学1・2年生へのベースボール型スポーツ入門指導、ティーボール指導が俄然注目されています。本書が、その一つの「パスポート」となって少しでもお役に立てば望外の喜びです。

（東京理科大学名誉教授・元学校法人日本体育大学日体幼稚園園長）

#### [参考文献]

1. 丸山克俊・吉村正編著：ティーボール・ティーチャー指導教本，体育教育出版会，2017年.
2. 日本発育発達学会編：幼児運動指針 実践ガイド，杏林書院，2014年.

## [参考資料]

# 幼稚園教育要領

(文部科学省)

# 保育所保育指針

(厚生労働省)

# 幼保連携認定こども園 教育・保育要領

(内閣府・文部科学省・厚生労働省)

2017年6月

幼児の健康と人間関係に関する「ねらい」についてはおおむね次のような内容が記されている。

## 健康

[健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。]

### 1 ねらい

- (1) 明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。
- (2) 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。
- (3) 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。

## 人間関係

[他の人々と親しみ、支えあって生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う。]

### 1 ねらい

- (1) 幼稚園生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。
- (2) 身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ。
- (3) 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。

## 幼児＆小学１・２年生のための ティーボール指導教本Ⅰ

- [執筆者] 丸山 克俊（東京理科大学名誉教授・日本幼少児健康教育学会会長）  
吉永 武史（早稲田大学准教授・日本体育科教育学会理事）  
吉村 正（早稲田大学名誉教授・中国煙台大学客員教授）
- [特別協力者] 川崎のはる [表紙]
- [協力者] 岩崎 恭子（一般社団法人日本女子プロ野球機構理事）  
大島 公一（野球評論家）  
黒羽 昭（株式会社ジャクパ顧問）  
高島 勝（株式会社ジャクパ取締役 体育事業本部長）  
町田 豊（東村山市・久米川幼稚園園長）  
吉村 裕（宇治市・広野幼稚園園長）
- [撮影協力] 久米川幼稚園（東京都東村山市）  
広野幼稚園（京都府宇治市）
- [写真撮影] 町田 豊（同上）  
吉村 正（同上）
- [イラスト] 錦織砂緒里（以上、敬称略）

[お問い合わせ]

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-34-12 竹内ローリエビル403号室  
TEL：03-6273-8611 FAX：03-6273-8605 E-mail：info@teeball.com  
NPO 法人日本ティーボール協会 [http://www.teeball.com/]

## 幼児＆小学１・２年生のための ティーボール指導教本Ⅰ

2018年１月６日 第１版第１刷発行  
2018年５月22日 第１版第２刷発行  
2020年１月５日 第２版第１刷発行

編著者 公益財団法人日本野球連盟  
公益財団法人日本高等学校野球連盟  
NPO 法人日本ティーボール協会

発行人 吉村 正（NPO 法人日本ティーボール協会理事長）

発行所 体育教育出版会  
〒950-2022 新潟県新潟市西区小針1-11-8  
株式会社ハイングラフィック  
TEL：025-233-0321 FAX：025-233-0322  
E-mail：h.sato@haingraf.com  
担当：佐藤 弘之（体育教育出版会専務理事・事務局長）

印刷／製本 株式会社ハイングラフィック

ISBN 978-4-909112-01-9

定価：本体 500円＋税